

今年は滋賀に、集まれー!

「自然栽培」と「福祉」を愛する人たちの年に一度の祭典。

第4回 自然栽培パーティ 全国フォーラムin滋賀

2020年1月31日(金)~2月1日(土)開催!

場所

1日目 琵琶湖ホテル 瑠璃の間
〒520-0041滋賀県大津市浜町2-40

2日目 ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター)大会議室
〒520-0801滋賀県大津市におの浜1-1-20

参加費2,000円 ※会員は無料 **誰でもご参加いただけます!**

主催:一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会

共催:公益財団法人ヤマト福祉財団/後援:滋賀県

定員
300人



はじめてやります。自然栽培パーティ・アワード、開催!

Shizensaibai
Party
Award



- 農福師って、なんだ。知らないだろ。知らないはずだ。自然栽培パーティがスタートして5年目にして、初めて生まれた称号だ。5年ぐらいかげなきゃ、生まれなかった称号だ。
- 農業と福祉が結びついて、農福連携と言うけれど、実際に農場に出て、農作業をたのしめる人を、農福師と呼ぶことにした。
- 農作業をしている姿を見ていたら、ほんとうに、農作業が好きなんですわ、作物に愛情を感じるなど思える人。農業にかかわってとても健康になった、ぐっすり眠れるようになった人など、日々の暮らしがたのしくなった人も、農福師と呼びたい。

農福師が生まれるぞ。

初開催の自然栽培パーティ・アワードで表彰するのは2部門。農作業に励む障害者のみなさんを、敬意をこめて表彰したい。

【農福師 ありがとう賞】

自然栽培の栽培技術が向上したり、取り組む姿勢が成長して、自然栽培の成果に目覚ましい貢献のあった人。

【農福師 よかったね賞】

自然栽培に参加して、たのしみを見つけた人。毎日をたのしく送れるようになった人。いっしょにはたらく仲間とシアワセを共有する賞です。

フォーラムで、農福師を祝い、農福師と語り合おう。



基調対談

木村秋則さんにトコトン聞こう。

木村秋則さんの栽培のツボを、佐伯康人さんが聞く。

自然栽培は深く、ひろい。佐伯さん(自然栽培パーティ・栽培顧問)も、まだまだ木村さんの術を盗みきれない。今回は、たっぷり1時間、佐伯さんがトコトン聞き尽くす。



あなたの悩みを、木村さんに直接ぶつけよう。

あなたの悩みは、あなただけが知る。あなたの悩み・不安を、木村さんに聞きたいことを、事前に教えてください。木村さんにお答えいただきます。まったく、農業未経験の人でもいい。いや、プロの農家からの悩みにもお答えしよう。

※質問が多数になれば、木村さんに選んでいただいて、最低5つの質問にはお答えします。

※参加申し込み用紙の「木村秋則さん、教えてください」の欄にご記入ください。

木村秋則氏

1949年青森県生まれ。不可能といわれた完全無農薬・無肥料のリンゴ栽培を成功させ、以降様々な農産物において自然栽培のメソッドを確立。現在は国内外で、自然栽培を普及させるべく農業指導に尽力している。

佐伯康人氏

メジャーデビューまでした元ロックスター。脳性まひの三つ子を授かったことで障害者福祉に関わるように。木村さんとの出会いから自然栽培をはじめ。自然栽培パーティの栽培顧問を務め、全国に指導にまわる。



木村さん(左)佐伯さん(右)

パネルディスカッション「農業の福祉力で地域を育てよう！」

磯部竜太氏

社会福祉法人無門福祉会 事務局長

杉田健一氏

NPO法人縁活 代表

中原力哉氏

社会福祉法人一麦会 ソーシャルファームもぎたて 所長

中道唯幸氏

中道農園 園長

コーディネーター

里見喜久夫氏

季刊『コトノネ』発行人／編集長

自然栽培で耕作放棄地をなくす、おいしい野菜をつくる、いくつになっても仕事をたのしむ、伝統野菜をよみがえらせる、障害者と地域がつながる、地域のみながつながる。自然栽培と自然栽培パーティのおもしろさ、その農業を超えた可能性を語り合う。と言っても、可能性はひろがっても、現実はずまずきの方が多い。いや、そのつまづきこそが、明日の糧だという声もある。自然栽培パーティや農福連携で活躍する全国の仲間たちの、グチとも、悩みとも、誇りとも、つかない話を聞いてくれ。

2日目は分科会で話し合おう

分科会では、テーマ毎に話ができるように色々な分科会を用意しました。

①流通ビジネス分科会

自然栽培で作った作物をどう流通させるのか、六次化で売れるようにするには? など、その道の実力者3人にお話を聞きます。

②自然栽培現場の実態

自然栽培で農作業をすることの大変さや楽しさ、コツなど、現場で実際に農作業に関わる人を中心に様々な情報交換をしましょう。

③SDGsカードゲーム!

SDGsカードゲームを通して、SDGsと農福連携について考えましょう。

④みんなではなそう

むずかしいことはわからないけど、話したいことはたくさんある! 障害当事者もふくめたひとたちでいっぱいはなしをしよう! 障害当事者限定ではありません

good

1日目の夜は交流会

和歌山県の一麦会から、ポスツク楽団が来演。食べて、話して、おたのしみください。

good

好評フォトコンテストも2回目開催

- 入賞者にはプレゼントりんご1箱を予定。
- 作品の締め切りは1月15日(水)まで
- ご応募は、自然栽培事務局へ



第4回 自然栽培パーティ 全国フォーラムin滋賀 プログラム

●自然栽培パーティ・アワード開催 ●フォトコンテスト開催 ●自然栽培マルシェ開催

日時：2020年1月31日(金)～2月1日(土)

場所：|1日目| 琵琶湖ホテル 瑠璃の間

〒520-0041 滋賀県大津市浜町2-40

|2日目| ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター) 大会議室

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜1-1-20

主催：一般社団法人農福連携自然栽培パーティ全国協議会

共催：公益財団法人ヤマト福祉財団

後援：滋賀県

1日目 2020年1月31日 琵琶湖ホテル 瑠璃の間

- 12:45 ● 開場 受付開始
- 13:15～13:30 ● ごあいさつ
- 13:30～14:30 ● **基調対談**
「木村秋則さんにトコトン聞こう。」
- 14:30～16:00 ● **自然栽培パーティ・アワード**
- 16:00～16:20 ● **自然栽培パーティ映画**の予告編上映
- 16:20～17:15 ● **パネルディスカッション**
「農業の福祉力で地域を育てよう!」
- 17:15 ● 閉会

good フォトコンテスト展示

フォーラムに集うのは、全国の仲間のほんの一部。普段の仲間の様子を、写真展示で伝えます。来場者による投票とフォトコンテスト事務局の審査で、栄えある大賞が決まります!

good 自然栽培マルシェ

今年も買えます! 毎年大人気のマルシェ。どんな商品が並ぶかは、当日のお楽しみ。

good 交流会 18:00～20:00(会費:8,000円)

ポズック楽団プロフィール

和歌山県の社会福祉法人一麦会の1事業所「Po-zkk」のメンバーで結成。とにかく目立つの大好きなメンバーたちが賑やかな鳴り物をもってオモシロオカシクお茶目に登場するチンドン楽団! その場に花を咲かせます!



会場アクセス

琵琶湖ホテル

JR大津駅からシャトルバス(1時間に4本運行/乗車時間5分)または、京阪びわ湖浜大津駅から徒歩5分

ピアザ淡海

JR膳所駅から徒歩12分または、京阪石場駅から徒歩5分

※琵琶湖ホテルとピアザ淡海は、徒歩15分ほど



2日目 2020年2月1日 ピアザ淡海 大会議室 ほか

- 9:30 ● 開場 受付開始
- 10:00～11:30 ● **分科会**
 - ①流通ビジネス分科会
 - ②自然栽培現場の実態
 - ③SDGsカードゲーム!
 - ④みんなではなそう
- 11:30～12:15 ● 振り返り
- 12:15 ● 閉会



自然栽培パーティで農業をたのしもう。 日本の健康、世界のSDGsを実現しよう。



自然栽培パーティって、何なの？

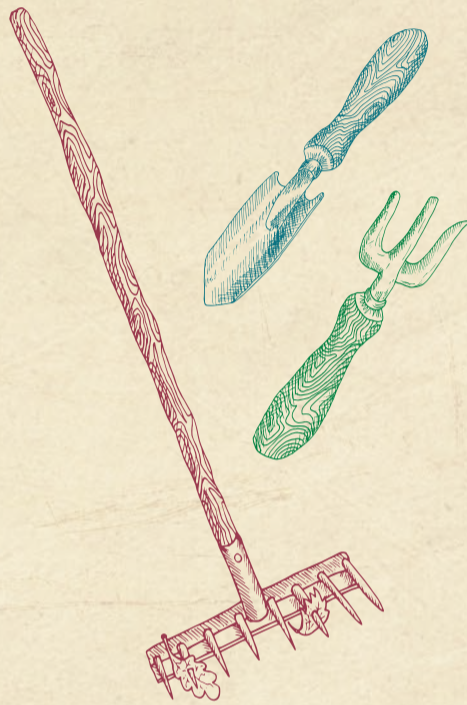
自然栽培パーティは、障害者が自然栽培を全国にひろげる活動です。佐伯康人さんのボランティア活動を、公益財団法人ヤマト福祉財団さんが支援して、2015年に本格的な活動になりました。初年度は、全国5施設が参加して、コメ作りに挑戦。見事に成功しました。翌年2016年に一般社団として組織化しました。



メンバーって、どんな人？

北は北海道から南は沖縄まで、全国には仲間が102団体。73事業所が福祉施設です。農家や企業も参加して、栽培、販売、商品化などの協力が始まっています。

イメージづくりもたのしんでいます。デザインがっしょのTシャツを着て、畑にはのぼりを立てて、目立つ、たのしい農業が狙い。障害者も、目立たなくて。



自然栽培って、無農薬・無肥料ってホント？

農薬・除草剤はもちろん肥料も使わない栽培方法です。大きく育てて願って多めに肥料を与えると、病害虫もよるこんで集まってくる。もともと野に咲く花は自然栽培。環境にもよくて、食べ物としても安心です。

自然栽培に取り組んで7年。はじめはうまくいかなかった。佐伯さんに「土がダメなんだ」と言われて、土のことを考え出したら、土が少しずつ変わってきた。そしたら、畑が変わり、野菜も変わってきて、人も変わってきて、地域も変わってきて、ああ、すごい、地球ってつながっている！
杉田健一さん(滋賀:おもや)



北陸は雨が多い。気候や土壌に悩まされることも多い。課題はまだ山積みです。でも、仲間がいること、増えてきていることが、心の支えです。環境や食にこだわり、障害者福祉の工賃向上に努めます。



藤島健一さん(石川:リハスファーム)

自然栽培パーティの活動は、SDGsにもぴったり！

最近よく聞くようになってきた「SDGs」という言葉。国連サミットで採択された持続可能な世界を実現するための2030年までの国際目標のことです。障害のある人が、地域の耕作放棄地等を活用し、環境にやさしい農法を行う自然栽培パーティの活動は、17ある目標のうち、「すべての人に健康と福祉を」「働きがいも経済成長も」「陸の豊かさを守ろう」など、いくつもの目標達成につながる取り組みといえます。



SDGsは、障害者施設だけにとどまらない、みんなに共通する1つの目標です。みんなと一緒に自然栽培パーティの活動を通してSDGsの世界を作っていきましょう！
新井利昌さん(埼玉:埼玉福興)



全国に仲間がいるから、やれる。
やるから、仲間が増える。

栽培の知恵の共有。システム開発

他人の失敗・悩み・成功も、自分の情報・知恵になる。電話でやり取りするだけでなく、いつでも何度でも栽培情報を確認できるように、オリジナルシステムも開発しました。

「北海道ディナー」開催！

今年2019年、チーム北海道が自然栽培パーティの野菜を使ったディナーショーを札幌で開きました。

全国から野菜を持ち込んで、お客さんも全国から来ていただいて、自然栽培パーティではじめて、北海道でディナーショーを開催しました。
柳瀬麻由子さん(北海道:みのり彩園)



企業も応援。「一反パートナー」

企業が田んぼを一反単位で支援。障害者といっしょに、田植え、稲刈り、草取りなど、農作業もいっしょにたのしむ。実ったコメは、企業の社員食堂や顧客サービスにも活用してもらう。これからのCSR活動です。現在、カシオ計算機の他、三遠ネオフェニックス、ヤマト福祉財団の3社にひろがりました。

カシオ計算機株式会社さんにパートナーになってもらって、今年で3年目。社員の家族にも農作業を手伝ってもらって、関係も深まりました。今では名前を呼び合う仲になりました。菜の花の中で欠かせない一大イベントです。
小淵久徳さん(群馬:菜の花)



コラボ商品

「俺たちの米だぞ」「旬を旅する」

季刊『コトノネ』とコラボ商品もつくっています。新米をセットにした「俺たちの米だぞ」は販売5年目を迎えました。昨年からは、四季の旬の野菜や果物の詰め合わせをたのしむ「旬を旅する」も登場しました。

1つの事業所だけではたのしくない。北から南まで栽培しているパーティだからこそその魅力セットです。じわじわ人気上昇中。
川井彩湖さん(自然栽培パーティ事務局)



車いすバスケットボール大会も応援

天皇杯第47回日本車いすバスケットボール選手権大会のオフィシャルパートナーであるヤマトホールディングスさんが、優勝チームへの副賞として、自然栽培パーティの米を選んでくれました。600kgを贈呈。



自然栽培パーティの活動が、映画に！

映画監督の中務貴史さん、岩崎靖子さんが共同で自然栽培パーティの活動を2年がかりで撮影。2020年には公開予定。今年のフォーラムでは予告編を上映します。ご期待ください。紹介動画はこちら▶



●参加申し込みは

自然栽培パーティのホームページから、申し込み用紙がダウンロードできます。必要事項を記入し、FAXで右記事務局へお送りください。

自然栽培パーティ事務局[社会福祉法人無門福祉会内]
jimukyoku@shizensaibai-party.com
TEL:0565-45-7883 FAX:0565-45-7886